

占 春 会 報

第 19 号

発行 八尾市千塚 2 丁目 95 番地 大阪府立清友高等学校
占春会事務局 TEL (0729) 41局3456

創立五十周年を 来年に迎えて!!

占春会長

河合 隼子

占春会員の皆様お元気ですか。皆様方がいつも眺めておられた信貴の山並みは、濃く淡く眩しいばかりの青葉に満ちております。

この一年間を省りみまして、激動の昭和は終止符を打たれ、世も平成と変わりました。創立時に、入学した私達は、まさに昭和と共に歩んできたようです。平成の文字はまだ書き慣れません。しかし、元号の名の通り世界中が願っている平和な時代であることを望みます。

さて、私達の母校「清友高校」は、昭和十六年に創立されました。平成二年には半世紀の五十周年目を迎えようとしております。五十年というのは一つの節であると思えます。この節を大切に、日々教育に専念して下さる先生方や、ご両親、在校生、勿論卒業生は全員で、この節である五十年の慶びを共にする機会を得たいと思えます。

この会報をしっかりと読み下さり、皆様の良き意見、又、ご協力をお願い致します。

最後になりましたが、本年卒業され、新入会員となられた方達、〃おめでとう〃進学、就職されて、意欲に燃えて頑張っておられることでしょう。三年間清友高校の生徒であったことを克明に心に刻んで、共に母校の発展を願ってゆきましょう。

古きも若きもお互いに卒業生(占春会員)。縦、緯の絆を忘れることなく大切にして、母校を見守って行きましょう。

総会のお知らせ

日時 平成元年7月2日(日)
PM1:00~4:00

場所 たかつガーデン(大阪府教育会館内)
近鉄上本町下車

会員 20年卒~63年卒迄 3,000円
本年度卒業生は無料で御招待

第一部

1. 新入会員歓迎のあいさつ

2. 昭和63年度会計報告及び事業報告
3. 50周年記念事業について

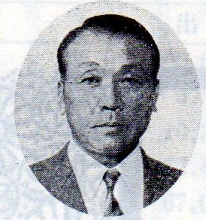
第二部

1. ビンゴゲーム (賞品多数揃えております)
2. 新旧会員の親睦 (バイキング風、屋台もです)

総会は、卒業生全員のものです。

日頃、顔を会わさずにいる卒業生の集まりとしてお友達で呼びかけ是非御参加下さい。(同窓生の場合として活用して下さい結構です) 多数の御参加お待ちしております。(お子様連れでも結構です)

和顔・心施



学校長 吉岡 一真

占春会の皆様、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

昭和の六十余年に及ぶ波乱と激動に満ちた長い歴史を閉じ、平成の新时代が開幕しました。

今や、わが国は世界有数の経済

大国にまで成長し、通貨である円も世界経済をゆり動かす程になりました。

また、巷には物が溢れ、使い捨てがまるで美德であるかのような錯覚を起こさせる時代になっておりますが、一方では、人間の心の貧しさや精神の荒廃などが大きな社会問題となつてきています。

物が豊かになるとともに、心も豊かにならなければ、本当の喜び、幸せを感じることはできません。

佛教の雑宝蔵経の中に「無財の七施」という言葉があります。無財とは、文字通り財産がないということですが、お金がなくても、人に對して少なくとも七通りのサービスができるという意味であります。

眼施(げんせ) 和顔施(わげんせ) 言辭施(げんじせ)は、

人に対して、やさしい、いつくしみの眼を向ける。やさしい、にこやかな表情を送る。やさしく、かわらかい言葉をかける。ということとであります。

更に、心施(しんせ) 真心のこもった思いやりの心。身施(しんせ) 清潔できちんとした身だしなみは、礼儀にも通ずる。床座施(しようざせ) 自分の席を人にゆずる。

房舎施(ぼうしゃせ) わが家に人を迎えて、丁重にもてなすことのできる心。であります。

これらの七施の心は、その気になれば、いつでも、どこでも、誰でもできる施しであるといわれています。

物で栄えて、心で滅びてはなりません。家庭で、職場で、地域で「無財の七施」の心を忘れずに、元氣でご活躍されますことを祈念いたしております。

清友高校は、本年度新たに五七六名の一年生を迎え、皆様方のお力添えをいただきながら、順調にスタートいたしました。間もなく創立五十周年を迎えます。この機に更に一層の発展充実を期して、全教職員が力を合わせて頑張っております。今後とも、本校の発展のためにご支援、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

母校だより

教頭 福田 定秋

サッカー部

5月15日現在大阪府下8位に入っており全国大会出場に向けて頑張っております。

陸上部

1日に向けての地区大会で百米10秒9の記録で、中央大会に出場、全国大会出場の可能性大です。

以上のように、活躍しております。他のクラブも負けじと頑張っておりますので、先輩達の盛大な御声援と、ご協力のほどお願いいたします。

行事

体育祭

6月15日

文化祭

9月30日・10月1日

本年度より清友祭を右記の様に分けて行うことになりました。

クラブ活動の状況

どのクラブも毎日熱心に練習しております。成果を上げていますが、主なものをご報告しておきます。

演劇クラブ

大阪府優勝

近畿大会準優勝

角 知子(社会) 松原高校より
入鹿布佐子(主査) 千北高校より
退職(平成元年3月31日付)
木村桂子(国語)
転出(平成元年3月31日付)

岩谷知志(社会) 大東高校へ

大坪 弘(理科) 四条畷高校へ

山本 進(理科) 箕面東高校へ

奥田智子(体育) 平野高校へ

中山耕一(書道) 西浦高校へ

中原光子(英語) 八尾高校へ

着任(平成元年4月1日付)

金沢恵子(国語) 高槻第10中より

香川正行(社会) 若江中学より

山田貴史(理科) 高美中学より

田中敬太(理科) 新任

横山好子(体育) 平野高校より

高田忠雄(書道) 西浦高校より

辻 英子(英語) 柏原東高校より

先生方の近況

先生方の異動

転出(昭和63年3月31日付)

島田樹宣(社会) 西寝屋川高校へ

磯野 彰(体育)

藤井寺高校へ

赤井友洸(主査)

池島高校へ

着任(昭和63年

4月1日付)

鎌田幸雄(体育)

西成高校より

選挙 準備の秋 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。私ごとには補せられませんが、このたびは四月一日付をもちまして、大阪府立北野高等学校教頭を引退いたしました。これまでの経験を生かし、新しい環境で誠心誠意活動してまいります。皆様方からのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。平成元年 四月 原 彰

清友高校演劇部、 大阪府130高校の頂点となり、 愈々、近畿大会出場へ

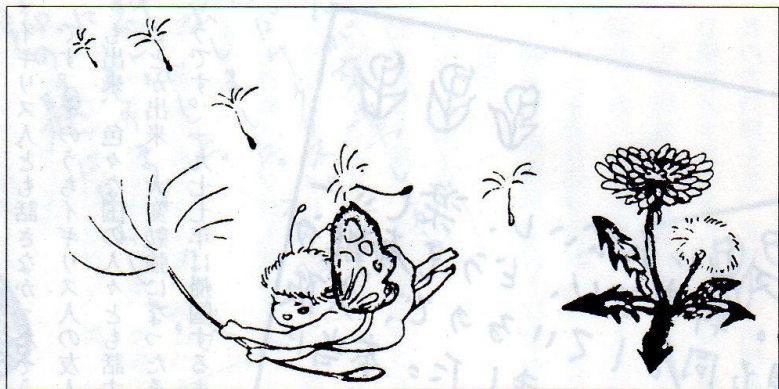
過去（昭和4年）、近畿大会に出場してより、19年振り、府下の新設高校も増え、東大阪地区大会で、強豪の樟蔭・布施・近大附男子高に勝ち抜いても、12地区の代表校が競う大阪府大会で勝ち抜くことは至難の業です。

（近年私立高の追手門学院（茨木）高・や初芝高などは、公立の十数倍の年間予算を誇る舞台装置や音響や照明で、公立高を寄せつけない。その様な趨勢の中で、みごと今年度は、清友が常勝の追手門・牧野・初芝・岸和田産高を敗つて、去る11月19・20日に箕面市立市民会館で催された第38回大阪府高等学校演劇コンクールにおいて次の様な成績を得ました。

- 最優秀賞 清友高
- 知事賞 清友高
- 優秀賞 金蘭会高
- 府教委賞 金蘭会高
- 優良賞 追手門学院（茨木）高
- 努力賞 市立工芸高
- 創作脚本賞 清友高
- 創作奨励賞 守口東高
- 舞台美術賞 追手門学院（茨木）高
- 個人演技賞 増田友子

南 恵子
（清友2年生）
濱地 渡
（初芝2年生）

（守口東2年生）
以上の様な結果で、次の近畿大会に臨みました。近畿高等学校演劇



協議会への加盟校は約200校です。会場は大阪府が当番で、箕面市立メイプルホールで11月26・27日に開催されました。

大阪府からは清友高・金蘭会高・追手門学院高・兵庫県は県立兵庫工業高・啓明女学院高・和歌山県は県立熊野高・滋賀県は県立堅田高・奈良県は天理高第二部以上8校の上演で、この大ホールは、身障者保護を第一義に建設された演劇・映画・図書館を統合した理想

的な評価を誇る会館で、去る11月3日にこけら落としされたばかりで名実共に香り豊かな檜舞台の上を高校生が歓喜あふれる演技がみられました。表彰の結果は次の通りです。

- 最優秀校 兵庫県立兵庫工高。
- 優秀校 清友高を初めとする7校。
- 演出部門賞 清友高。
- 舞台美術部門賞 和歌山県立熊野高。
- 創作脚本部門賞 兵庫県立兵庫工高教諭 中井哲郎氏。

◆ ◆ ◆
以上の様に決定され、清友高は実質2位の優秀賞と演出部門賞の二枚を獲得しました。全国大会出場こそは逸しましたが、わずか3名の部員に激減した部内事情を抱え、部存続の存亡を賭けた頑張り、評価されたものと思われれます。東大阪地区大会（10月29・30日）から数えて5週間の対外コンクールに、病氣もせず、マンネリにも陥らず、新鮮に演技した部員は讃えられてよい。今年度はもう一回、大阪府芸術文化祭に出演を寄せられています。忙が

しい頭の中で、ふと甦える言葉があります。阪大の山崎正和教授の「演劇部の部活動の中には、今の高校教育が、失ってしまった、すべてのものがある。」という言葉です。
顧問 内田 孝雄記



同窓会にあたって

昭和四十六年卒業 三年C組

昭和六十三年一月二十四日、十数年振りの同窓会を原田彰先生を囲んで開催致しました。開催するにあたり、同級生の現住所がわからず、先生もお忙しい中、年賀状等で調べて下さり、手分けして連絡しました。

どれぐらい集まるのか心配しましたが、その反響のすごさには驚いてしまい、当日は三十数名が出席しました。

これも原田先生のお人柄だと思えます。

幹事も急に決り先生のご協力なしでは開催出来ませんでした。

当日は、ただぐ懐かしい思いですっかり、おばさん(?)になっているのも忘れ、高校時代のかわいい乙女に戻り、フワァーワァー、キヤーキヤッ”と自己紹介や近況報告を言っ、青春を取り戻してしまいました。

その中で我が「三〇C」のクラスに、「下桐美子」という女性がありました。当日は、欠席だったので

すが、先生からのご報告では、「今はフランスで頑張つとる。」ということとで一同びつくりノ女一人で数年前からイギリスへ渡りそこで学校へ行き、英語を勉強しているなど聞いてア然としました。その彼女が近々帰国するらしいということがわかり、彼女を囲んで「歓迎会」をしているんな話しを聞こうということになり、半年後の七月二十四日に又々同窓会をすることになりました。先生にもご出席して頂き、前回から半年しかたっていないのに二十名近く集まりました。

当日は、下桐さんのお話しを中心に和やかに過ごしました。ここで彼女の体験されたことを少し書きます。

彼女は卒業して少しの間は、おとなしく(？)就職していたらしいですが、英語が話せるようになりたという強い思いから一九七五年、日本から何千万キロも離れた所、ロンドンへ行行ったのです。それまで日本で

いたそうですが、アメリカ英語に慣れていた為イギリス英語は、少ししか聞き取れず、話すのもやつとという程度で、一年半ぐらいいイギリス人とも話さなかつたそうです。そのうちイギリス人の友人も出来、色々な国の人々とも話すことが出来、大変勉強になったそうです。一九七七年に帰国するま

で、ハンガリー、オーストリア、スイス、スペインなど三つのパイトをこなして旅費を作り、旅したそうです。その旅行中も言葉が通じず、乗り物もわからず苦労したらしいです。

は「イギリス病」にかかってしまった数カ月は、ポケッツとしていたそうです。それから英語を生かす仕事として、日本アラブ友好協会事務局のアルバイトを始めて、そ



楽しいー
一生懸命、皆さんにお会いし、
が出来ました。幹事さん、どうも有難う
現在、私の親も同居しているので、大阪
に行く機会がなくなりました。本当に
マンニズでした。
市郊外の佐藤医院に主人の両親と私の母親
が三名と同居しています。とほ言、こも、主
の疎で暮らしています。週に一回、私の手料
として親睦を深めています。すべて円満です
らに子供がいないのが唯一の悩みです。互い
して結婚したのですが、こんなに早く双方の親
とが出来ると思ってもいませんでした。過
り気苦弟もありませんが、私が望んだ事ですから
いよます。毎日、家事と病院の仕事で忙しく過
す。職名がクレーションの世話、社会保険も
慰安旅行や新査、求人等、お盆と年の暮れには、病院
の説明会と新査、求人等、お盆と年の暮れには、病院
次と出てくるのです。お盆と年の暮れには、病院
バー一周同休みにやるので、全員の食事も作り
たかと思位、

二十五周年学年同窓会開催

七回生同窓会が昭和六十三年八月七日(日)午後四時より上六の「南海飯店」にて盛大に開催。

今年度は卒業二十五年とあつて、

各クラス代表の方々が二月より、

日程、場所、費用等と検討議題が

多く、数回にわたり集まり、当日

を迎えたわけです。

受付では、旧姓でクラス別色分

けの名札が渡され、卒業後始めての学年同窓会の為、久々の再会になつかしいおもかげを感じました。

A組十六名、B組十九名、C組

二十八名、D組十六名、合計七十

九名集まりました。

先生方にはおいそがしい所十名

ご出席いただきました。テーブル

を囲んでなつかしい顔、声と学生時

代に返ったようにはしゃぎました。

逸見先生のお祝辞をいただき「当

時は○才で君達が十八才」、会場に

はどっと笑いがあふれ、五十四年

に府立になり」と歴史をふり返ら

れました。カラオケタイムに入る

と一層盛り上がりが見えました。

先生方の近況のお話があり、当日

出席されなかつた先生方からのメ

ッセージのご披露もあり感慨無量

のひとときでした。

テーブルを回りながら、楽しい

語らいは、学生時代の事、家族の

事、老後の事となかなか話はつき

ません。

元音楽クラブの人達の先導によ

り校歌が斉唱される頃になると既

に時間が迫り、心を残しながら

記念写真を撮り、又元気な再会を

約して散会しました。

追信

残金と、御祝儀、寄付とは合わせ

て、占春会合同学校創立五十周年

記念行事に寄付する事にしました。

学年物故者はC組石川泰子さん、

D組駒井多恵子さん、先生は元校

長の吉持博先生、元教頭の川畑茂

先生、英語の吉田節子先生。

慎しんでご冥福をお祈り申し上

げます。

合掌

府立移管10周年記念誌発刊にあたって

学校長 吉岡 一 真

本校が第126番目の大阪府立高等学校として、昭和54年に八尾市から大阪府に移管されてから、今年で10年目を迎えました。ここにその記念誌を発刊できますことは、ひとえに教職員・生徒のたゆまぬ努力と、PTA、占春会、清苑会の皆様方の暖かいご支援の賜物と存じ、厚く御礼申し上げます。と同時に、この記念すべき時に在職し得ました光栄に、明日への決意を新たにしている次第でございます。

この度の記念誌発刊は、過去の10年を振り返り、初心をあらためて再確認するとともに、時代の動きを見極めながら、明日からの10年そして更に次の10年へと永久に続く本校のたくましい発展を目指して、決意を新たにするものであります。今後とも皆様方の変らぬご指導をお願い申し上げます。

終りに、記念誌の編集にあたり、担当者のご苦勞も一方ならぬものがあつたと思います。ご尽力いただいた皆様方に対して深甚なる敬意を表して、ご挨拶といたします。

はとたし清友
府立移管10年の歩み

代表 代期 回 だより。

五月二十一日(日)に回期代表会を
招集致しました。

本年度は、若い卒業生の参加が
多く、熱気に満ちた集まりとなり
ました。皆様方のお手元に届く会
報は、回期代表の方々により、宛
名書き、発送がなされています。
毎年、各学年の代表の方に往復ハ
ガキで出欠をとらせていただいで
おりますが、全く、お返事のない
方も多数おられます。又、出席と
されていながら、連絡なしで当日
欠席される方もおられます。
急用でも、必ず御連絡下さらない
と、他の出席者に御迷惑がかり
ます。又、準備の都合上、あわて
なくてはならない事も多々ありま

す。本年卒業者の代表からも「返
事すらしらないとは、責任感がない」
との声もあがっております。御
家庭の都合、又お仕事都合等、
あるとは存じますが、回期代表に
なられた責任をもう一度再確認し
て頂きたいと思えます。

出席者及び発送作業を お手伝い下さった方

(20年卒) 小林慶子・中野郁子

(21年卒) 河合聿子

(23年卒) 中易敬子

(26年卒) 福田嘉代子

(28年卒) 辻本恵美子

(34年卒) 永岡征子・安井美幸

(36年卒) 植木功子・辻野伶子

(38年卒) 大向信子

(41年卒) 稲沢キミ

(42年卒) 東海久美子

(45年卒) 川村常子

(51年卒) 村上千香子

(53年卒) 松村圭子・三原和子

(54年卒) 林越元子

(57年卒) 古田清子

(59年卒) 谷村淳司

(62年卒) 浜田明伸

(63年卒) 山口健司

(平成元年卒) 至田友紀・川上博美
井上和哉・黒田由美・渡辺芳江・
辻中孝夫・高林真由美

(以上) 書記

富田和加子さんののび

仲間らが遺作展

石の彫刻家

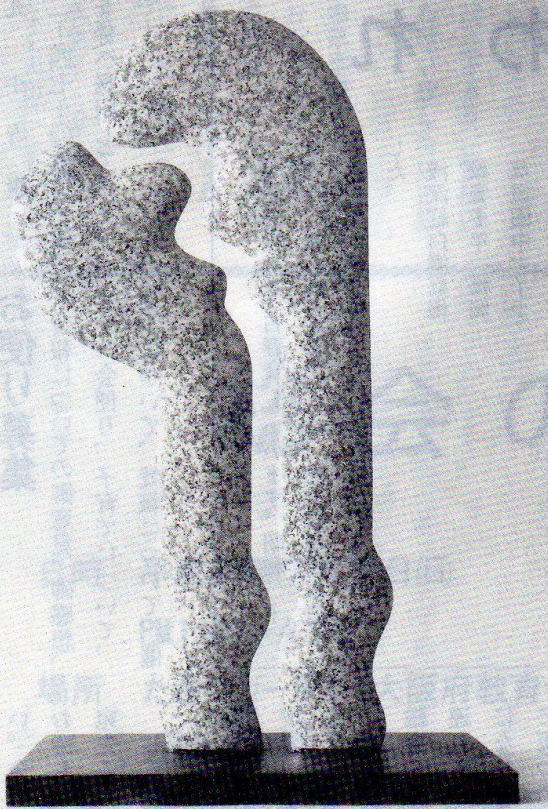
さる一月二十七日、私たちの友
人である富田和加子さんが、突然
の疾患により、二十八歳という若
さで他界されました。彼女の生前
のエネルギーを姿を知る者に
とって、その死はあまりにも思い
がけず、また、深い悲しみと無念
さに満ちたものであります。

富田さんは、夙川学院短期大学
美術科在学中から、数々の石彫、
工芸作品の制作に励んでこられま
した。いかにも富田さんらしい大
らかな情熱を感じさせるその作品
群は、彼女の人生のまがうことな

き証しとして、今も私たちの前に
残されています。

そこで、富田さんの死を悼み、
短くも鮮やかだった彼女の情熱の
軌跡をいま一度私たちの胸深く効
みこむためにも、有志一同の発意
による「富田和加子遺作展」を、
一九八八年三月、大阪南の「中村
画廊」にて開催、亡き富田和加子
さんの作品世界に、その情熱にふ
れていたいただきました。ご多忙中
にもかかわらず、多数のご高覧をい
ただきましたことを、関係者一同
心よりお礼申し上げます。

しのび草



EMBRACE 1986年作 白御影石 H600



富田和加子さんの遺作展の開催を
お聞きし、心よりお慶び申し上げます。
彼女の作品は、情熱と情愛がこめられて
いるように感じられます。彼女の死は、
私たちにとって大きな痛失です。彼女の
作品を拝見し、彼女の生き様を垣間見
ることができ、心慰まれます。彼女の
作品は、私たちの心を打つてくれます。
彼女の作品を、これからも大切にしてい
たいと思います。彼女の作品を、私たち
の心に刻みつけておきたいです。彼女の
作品を、私たちの心に刻みつけておき
たいです。彼女の作品を、私たちの心に
刻みつけておきたいです。彼女の作品を、
私たちの心に刻みつけておきたいです。

63年度 会計報告

収 入		支 出	
高金	1,515,983	期費	1,500,000
残分	1,617,000	費費	3,595
入金	98,869	費費	10,340
雑入	15,889	費費	362,400
雑寄	60,500	費費	67,000
		費費	355,000
		費費	200,000
合 計	3,308,241	合 計	2,498,335
		繰 越 金	809,906

占春会報購読希望者へ

TEL〇六一九七二一一七〇七
一冊分送料込 二五〇〇円
昭和49年以前の卒業生については「占春会報」購読希望者は「賛助金」一口三〇〇〇円以上をお願いしてきました。引き続き受け付けております。未納の方は左記口座へお振込み下さいませ。

大阪33204

郵便局

占春会

(振替口座)

(一口3000以上)

卒業年度「忘れなく!!」電話番号

賛助金の御協力を頂いた方

昭和28年卒

辻野恵美子

昭和34年卒

飛田和代

昭和37年卒

岡田裕子

昭和38年卒

山田喜代美

昭和42年卒

市川弘子

昭和46年卒

松川真弓

昭和48年卒

当内慶子

小西貴子

名簿ご入用の方は左記まで

〒537 大阪市東成区東小橋3-1-2

1-26 アンドレス美容室

柳生和子(名簿係)

●会報十九号の送料、印刷費、総会費(五月二十二日の分)は残高より支払い致します。
本部会計 辻本恵美子
会計監査 小林慶子
右の通り、正確であることを報告致します。
平成元年三月三十一日

清友高校同窓会

占春会のいわれ

〒631 奈良市中山町西一八六八
一三九 小寺康子
電話〇七四二一四七〇五二一番
☆直接現金を係へ送附して下さいませ。でも結構です。
☆お便り募集
会報についての御意見、御感想、クラス会便り、子育てについて、進学について、就職について、催しのご案内等々、何でもお寄せ下さい。会員の方・先生方の御投稿、お待ちしております。

同窓会の名を「占春会」といいます。昭和二十三年三月、第一期が卒業した時、初代校長生田鹿之丞先生はその慶びを次のような詩によまれました。

浅深紅白満庭梅
教養多年一様開
莫道園中才子少
百株皆是萬葩魁

多年の教養が実を結び、一様に美しく果立ってゆく卒業生達を、春の魁として紅白とりどりに花開く梅花に擬え、祝福されたのであります。

ついでこの梅花にたとえた才子の集りを「占春会」と命名されました。その名は、清友の象徴である梅の花に因んで、次の水戸烈公の梅花の詩の第四句より採られたのであります。

弘道館賞梅花
弘道館中一樹梅
清香馥郁十分開
好文豈謂無威武
雪裡占春天下魁

最初に「莫道園中才子少」とよまれた卒業生は、今では多くの男子の才子を混えて愈々盛大になりつつあります。

呼びかけ

昭和54年卒 F組のみなさん、総会で集いませんか?もちろん子連れもOK!!3年ぶりのクラス会になります。近況報告、学生時代に戻ってワイワイやりましょう。お待ちしております。

編集

後記

☆来年度は創立50周年をむかえます。卒業生の皆様祝賀会には、是非御出席下さい。

☆本年度卒業の同期代表のみなさんの若さ、パワーにはただただ驚き、「私はある人達のお母さんより年上だわ」との声もチラホラ……。

☆毎年何百通と会報が戻ってきます。住所変更された方は、必ず書記まで御一報下さい。